

Aim-High プログラムとは

熊本大学大学院自然科学教育部博士前期課程および博士後期課程においては、基礎研究から応用研究までの広範な研究基盤の上に立ち、世界に通用する研究者および高度な専門知識をもつ技術者を育成します。世界最高水準の研究を支える研究志向型人材を養成するために、学業成績、人物ともに優れた学生を対象として Aim-High プログラムを設定します。

特徴と構成

Aim-High プログラムには、大学・研究機関で活躍する高度な博士人材の育成を目的とする「研究者養成コース」とイノベーションをリードする博士企業人の育成を目的とする「産学協働教育コース」の2つのコースがあります。いずれのコースでも一定の基準を満たせば早期の学位取得が可能になります。

「研究者養成コース」では、海外の研究者と連携した研究指導を受け、博士後期課程在学時には海外留学を行います。

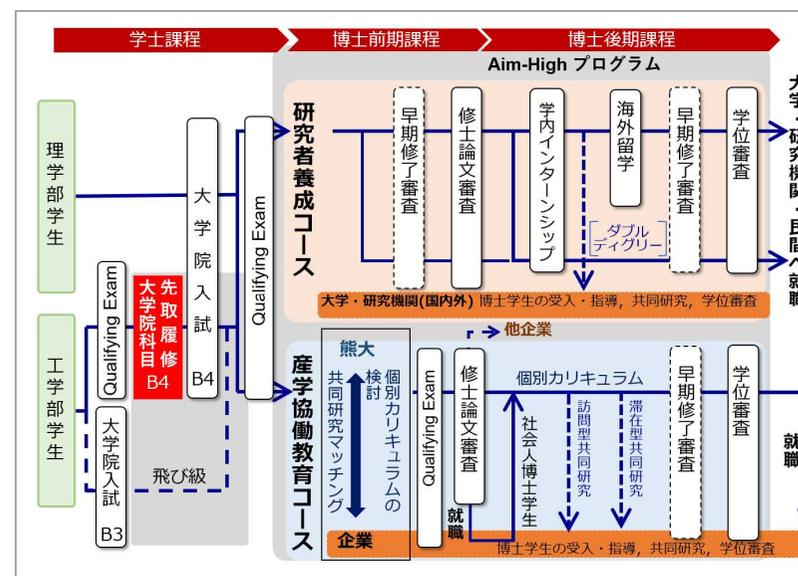
「産学協働教育コース」では、企業との組織的な連携のもと、本学教員と企業研究者との共同研究に参画し、学生・教員・企業研究者の間で立案された訪問型共同研究や滞在型共同研究を行います。

本プログラムに加わるには、指導教員と相談して同意を得た上で出願し、Qualifying Exam で合格と認められる必要があります（詳細は募集要項を参照）。

熊本大学

大学院自然科学教育部

Aim-High プログラム



問合せ先：大学院教務担当 096-342-3016(ダイヤルイン)

研究者養成コース

○ 学内インターンシップについて

通常の研究指導教員のグループを離れて、異なるグループで一定期間活動します。活動の期間や形態は問いませんが、異なる環境で研究者としての見識を広める努力をします。学内インターンシップの具体例としては次のような場合が考えられます（※学外の大学、研究機関等で実施する場合はご相談ください）。

- 研究指導教員以外の研究室のゼミに参加して自身の成果について議論
- 研究指導教員以外の研究室で異なる研究手法を修得
- 研究指導教員以外の研究室で自身の研究手法を指導

○ 海外留学について

最低一か月以上で、三か月以上がより望ましいといえます。海外留学には渡航費および滞在費など多額の費用が必要です。日本学術振興会特別研究員などの学生自身の予算や研究室からの支援がない場合でも、学内あるいは公的な支援制度が活用できます。いずれにしても競争的な制度ですので、支援対象者となるには英語コミュニケーション能力を高めるなどの努力が必要です。

（支援制度の例）

- IJEP 海外派遣プログラム（日本人学生対象）奨学金（給付型）
- JASSO 海外留学支援制度（協定派遣）奨学金（給付型）
- トビタテ留学 JAPAN（官民協働海外留学支援制度）奨学金（給付型）
- 学長裁量経費による教育部からの渡航費支援

産学協働教育コース

○ 共同研究マッチングについて

本コースを希望する場合は指導教員が企業等との共同研究を実施し、その研究に学生が参画して学位論文としてまとめるというマッチングが可能かを事前に指導教員と十分に相談して下さい。

博士前期課程 1 年次を終えた時点で学生、指導教員および企業の間でマッチングを確認し（Qualifying Exam）、プログラムを継続するか否かを判断します。マッチングが不成立になったり共同研究が終了したりした場合は一般の大学院生と同じ扱いに戻ります。

○ 個別カリキュラムについて

共同研究の中で学生が企業に出向いて行う訪問型共同研究および滞在型共同研究を実施して、基礎研究から応用研究への展開を図ります。

○ 就職について

マッチングが継続した場合、学生は学位取得後に共同研究企業に就職します。また、博士前期課程修了時点で、共同研究企業に就職し、社会人として博士後期課程に入学してプログラムを継続することもできます。

その他 共通事項

- 入試について：現行の大学院入試（推薦入試・一般入試・学部 3 年次を対象とする入試）を受験して合格する必要があります。
- 早期修了について：修業年限特例の制度によります。
- 授業料について：一般の大学院生と同じです。先取履修生募集で大学院科目を先取履修することによる追加の授業料は発生しません。
- プログラムを離脱する場合：一般の大学院生と同じ扱いに戻ります。
- 途中でプログラムへ入る場合：博士前期課程修了時まで申請可能です。申請時期は年一回（3月～4月）です。